

Title	個人投資家向けIR活動のための効果的ツールミックス戦略
Sub Title	
Author	佐藤晃一 (Satou, Kouichi) 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1440号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1440

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	和田研究会	学籍番号	89728477	氏名	佐藤 晃一
(論文題名)					
<p>個人投資家向け I R活動のための 効果的ツールミックス戦略</p>					
(内容の要旨)					
<p>I Rはインベスター・リレーションズ (Investor Relations) の頭文字を取ったもので「財務広報」、「投資家向け広報」と翻訳される。企業が財務政策上、機動的な資金調達を可能にし、自己資本の充実を図り、長期的な企業の成長を支えていくためには、現在の株主、潜在的な株主からの信頼を勝ち取ることが重要であり、企業とその株主など投資家との間の関係を常に良好に維持しておく活動のことである。</p> <p>これまで日本における I R活動は証券アナリスト・機関投資家といった専門家に対するものが中心であったが、近年低迷した株式市場の活性化、株式持ち合い解消後の受け皿の必要性などから個人投資家向けの I R活動の重要性が認識されつつある。</p> <p>このような観点から個人投資家の株式投資意欲を刺激する効果的なツールミックス戦略を構築するために、分析を行った。その結果、公正な株価形成と株主の安定、企業イメージの向上を I Rの目的と考えた場合に個人投資家向けの I R活動では生育過程で得た思い出・情報からなる企業イメージが過去から現在に至るまで一貫性があり、長期的な展望といった未来を描けるかが重要であることが分かった。</p> <p>そして、検証された内容をもとに、生育過程で得た思い出・情報と企業イメージの一貫性で企業を3つにグループ分けして、それぞれについて提言を行った。まず、「生育過程での思い出・情報あり、企業イメージの一貫性あり」のグループでは企業イメージを踏襲し、維持することが重要であり、株主還元策を厚くして企業イメージをより一層向上させることが求められる。多くの I R優良企業がこのグループに属するものと考えられる。「生育過程での思い出・情報あり、企業イメージの一貫性なし」のグループでは失われた一貫性を取り戻すことが重要であり、経営方針を対外的に語ることで、差別的 I Rツールを組み合わせることで生まれ変わったことをアピールする。このグループには業績低迷企業、合併企業などが含まれる。さらに「生育過程での思い出・情報なし」のグループでは生産財メーカー、新規株式公開企業が含まれると考えられるが、P Rも兼ねて I Rを推進すると特色として理解され、企業イメージに貢献する。</p> <p>以上のほかに I Rの継続性、I Rと P Rの相互一貫性、自社の強みを生かすこと、インタラクティブなツールであるインターネットのホームページの利用について提言を行った。</p>					